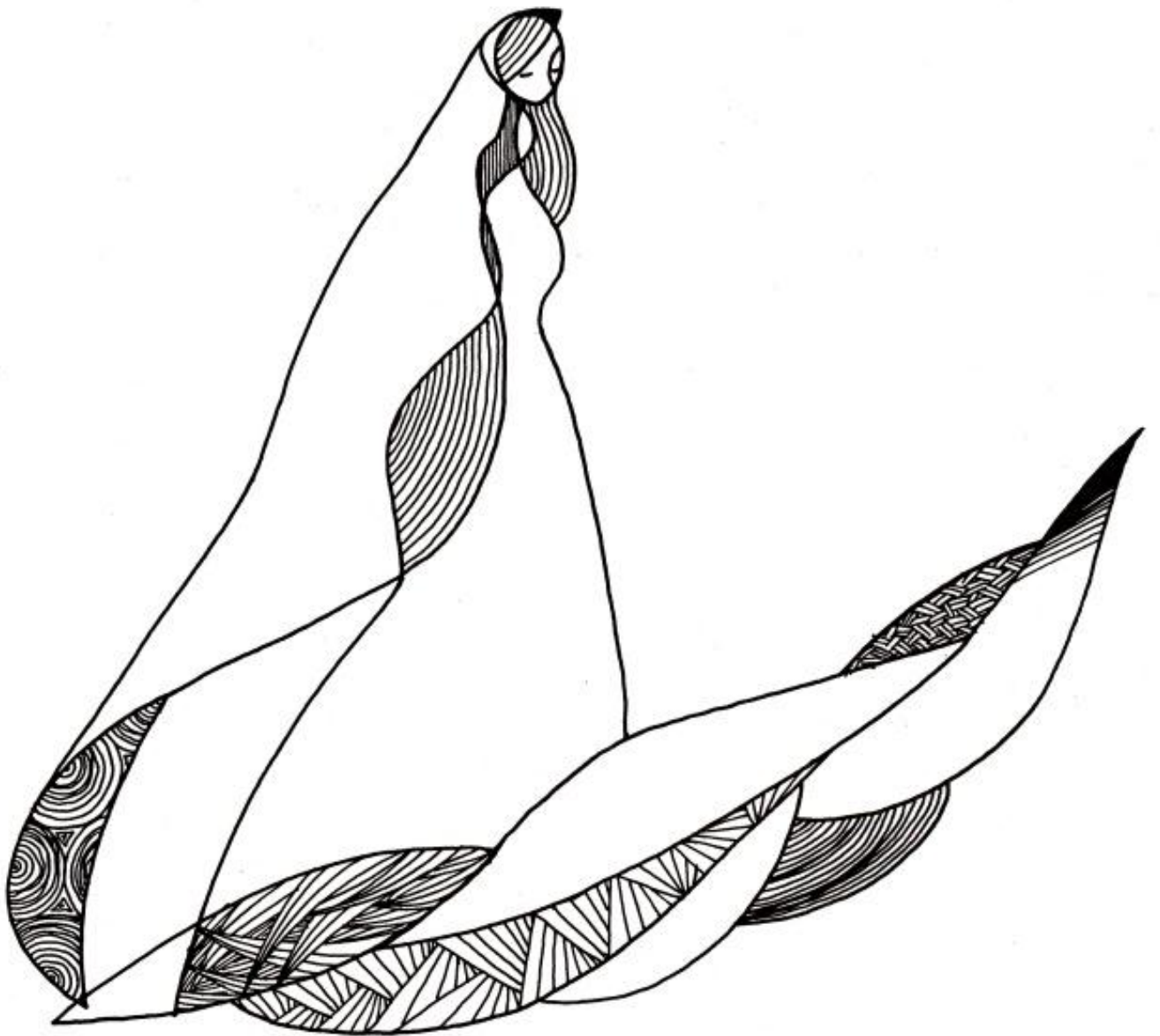


すみよし



2012年 被昇天号 第187号

《 聖 句 》

主は天上の宮から山々に水を注ぎ
御業の実りをもって地を満たされる

葡萄酒は人の心を喜ばせ

油は顔を輝かせ

パンは人の心を支える

詩編 104 章 13～15 節



2012 年度住吉教会年間テーマ『殉教者の霊性を生きる』

《キリストの後ろ姿をみつめて》

平成 24 年 6 月 9 日

溝部脩司教様

溝部司教様は前高松教区司教として、また 30 年以上にわたり高山右近の列福運動にたずさわられ、本年より引き続き京都教区にて活動されています。



キリシタン時代は殉教についてどう考えていたのか？
福音書によると「親、兄弟、姉妹、息子、娘すべてを捨てて私に従いなさい」とあります。イエスは弟子たちと方々の村に行かれた時、人々がイエスの事を洗礼者ヨハネとかエリア、預言者だと言うのを知り、弟子たちに「それではあなたがたは私を何者だと言うのか」と尋ねられた。ペトロが「あなたはメシアです」（マルコ 8：29）と答えました。メシアとは、武力に勝れ権力を持つものとペトロは考えていたのです。「私は人々から捨てられ、あなどられ、十字架につけられて死ぬ。そして 3 日の後に復活する。」と言われたイエスの言葉をいさめ始めたペトロに「サタンよ退け、あなたは神の事ではなく人間の事を思っている」と叱って言われました。

サタンとは何か？ どうしてペトロはサタンなのか？

ペトロがいつもガミガミと師であるイエスに小言を言い、自分の考えにイエスを引きこもうとする行為こそがサタンなのだとイエスは言われたのです。

「私の後ろ姿をみなさい」

イエスの生き方とは、喜んで人のために自分を差し出し、貧しく謙虚になり、苦勞を喜んで引き受け、人のために尽くす姿にあります。

さげすまれた娼婦たちの手を取り、人々のいやがるハンセン氏病の男を立ち上がらせ、目が見えない人に見えるようになりなさいと言う。一貫しているこのようなイエスの生き方から「私の後に従いなさい。自分の十字架を背負って私の背中を見て歩みなさい。私の後ろ姿を見なさい」という言葉が聞こえ又「サタン、おまえは前を向いているから私が見えないのだよ。」と諭されます。「イエスの後ろ姿をみながらゆっくりと歩かないとイエスの生き方は分からない」と福音書からこのようなことが伝わってくるのです。

私達の殉教

「私は弱いから殉教など出来ません。そんなことは出来ません。」と歩く前から言っている人には決して殉教など出来ません。当時の殉教者も急に殉教しようと思ったわけでは決していなかったと思われます。長年の間ゆっくりとイエスの後ろ姿をみながら歩いて行くうちに、イエスの生き方を見習いたいと思い、全てを献げたのです。今を生きる私達も今日一日の思い、仕事、苦悩を背負って、イエスの十字架を見つめ、その背中を見ながら歩く。

自分に与えられたものを生き、心配したり逃げたりしないで、若い人も年老いた人も自分の人生を歩いていく。これが殉教の精神であり、私達の毎日の殉教なのです。

過ぎ去らない永遠のもの



キリシタン時代のベストセラーと言われる「キリストに倣いて」という本があります。

当時の信徒たちはこの本を読んで暗記していました。この本を薦めた高山右近も当然暗記していて、迫害の中でも多くの信者が「組」を作って霊的読書をしていました。「この世は過ぎ去る。全ては過ぎ去る。」故にキリシタンたちは過ぎ去らない永遠のものに目を向け、この言葉を典拠として自分たちの歩むべき道を考えたのです。

「キリストに従って自己の聖性をめざし、神に寄り添う人となる。」これが人生最大の目標と知ったのです。

この本は ①霊的生活に有益な訓戒、②霊的生活に導く訓戒、③内的なぐさめ、④聖体拝領のすすめの4つに大別されます

全体として、「真の神であり、真の人であるイエスキリストに従うことが人生の最大の目標である。キリストに倣う人は、自分の十字架を背負って私の後に従う。従わない人は私にふさわしくない」との教えです。

これこそキリストの教えに従って命までも献げる幸いな行為、即ち「殉教」と呼ばれます。イエスの死を黙想するのです。

イグナチオの「霊操」

人々は多忙のため、静けさの深みに気がつきません。人は自分を孤独にすることで孤独の中の静けさに気付くのです。執着していたものを捨てて本物を見つけるのです。

キリストを求める人には次の3種類の人があります。

①この世に執着したままキリストをみる。②執着心は持っているがキリストの教えにひかれる。③本物を見つけて、この世の執着心を全て捨て去る。

「神はより高き栄光。神の国で働く人は第③の状況にまで登っていかねばなりません」福音宣教とは相対的な方法論ではなく、常に自分がどんな価値観を一番大切にしているのかが問われており、学歴社会の中での世間的な価値観ではなく、神の視点から見て人生を組み立てているか、子供を教え育て、家庭の在り方を考えているかを自分自身に問うのです。そして敢えて神の後ろ姿をみつめながら歩むことこそが殉教の道なのです。

以上は去る6月9日、日本26聖人列聖150周年記念の京都巡礼の折に、西陣教会に於いてお話し下さった溝部司教様の「殉教の精神について」の要約です。

編集部

[目次](#)

《 目 次 》

☆ 聖句	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
☆ キリストの後ろ姿をみつめて	溝部 脩 司教 ・・・・・・・・	3
☆ 目次	・・・・・・・・	5
☆ 聖霊が働くという事	松浦 悟朗 司教 ・・・・・・・・	6
☆ ようこそファン・ミン・マン枢機卿様	・・・・・・・・	8
☆ お元気でベロー神父様	MK ・・・・・・・・	9
☆ サムエル・ナイト	・・・・・・・・	11
☆ 二十六聖人の足跡を訪ねて （京都巡礼バス旅行）	・・・・・・・・	13
☆ 教会学校サマーキャンプ	・・・・・・・・	15
☆ 中高生サマーキャンプ	・・・・・・・・	17
☆ バーベキュー大会	・・・・・・・・	19
☆ 司教と青年の対話集会「主は私を見つけた」に参加して	KH ・・・・・・・・	21
☆ レジオ・マリエから	・・・・・・・・	22
☆ （2012 年小教区評議員の皆様	・・・・・・・・ 22)	
☆ 教会日誌	・・・・・・・・	23
☆ （ミサ・講座案内 （4 月 9 日～8 月 15 日）信徒動静	・・・・・・・・ 23)	
☆ 後記	・・・・・・・・	24

題 字： 山際 純子

表 紙 絵： 前田 季彩恵

- ☆ 平和旬間(8 月 6 日～15 日)に先駆け、福島の子供達を神戸に招いて共に過ごす為に神戸地区「ふっこうのかけ橋プロジェクト」が(8 月 2 日～5 日)開催され、愛徳修道会・カナの家・ナザレの家と共に住吉教会も宿舎になりました。8 月 4 日（土）13：00～愛徳学園にて平和祈願ミサ・ふれあい祭り等がありました。一連の様子は神戸地区広報誌「[つながり](#)」8 月号、並びに[HP](#)に詳しく掲載されておりテレビでも放映予定ですのでご覧ください。参加した子供達の文集もプロジェクトで作成予定ですので楽しみにお待ちください。なお一部は住吉教会 HP ニュース欄にも紹介されています。

＜「ふっこう」には復興と福島の「福」神戸の「神（こう）」の二つの意味があります。＞

《「すみよし」電子版は教会 HP にフルカラーで掲載されています。》

《 聖霊がはたらくということ 》

5月27日（日）、松浦司教様が司牧訪問、聖霊降臨の主日ミサを司式下さいました。

2008年1月、新しくなった聖堂でミサ司式後、子供達の可愛い質問にユーモア交りにお答え下さった事、冬の震災祈念ウオークで住吉から中央教会まで一緒に歩いて下さった事等が思い出されます。今日はミサ後、大人の質問や意見に丁寧にお答え下さり、パウロ三木ホールでは司教様を囲んでテーブルに集まった方々と親しくご歓談。開催中のHP委員会にも立ち寄られ、HPニュース等も見て下さいました。



『聖霊降臨の日のお説教から』

復活と聖霊降臨と昇天は一つのこと

今日は大きなお祝いである聖霊降臨の日です。復活から40日たってイエス様が天に昇られた日をご昇天と言い、50日目に聖霊が下った日を聖霊降臨と言いますが、この3つの出来事は分けられないひとつの事です。イエス様は復活したということは、昇天してすでに御父の元におられるということであり、そこから聖霊が送られたということなのです。ただ、弟子たちはその意味が良くわかるように、ひとつひとつ時間の流れの中で体験していったのでしょう。なぜ40日なのか？ イエス様は復活した後、主だった弟子たちに、私は「生きているよ」と何度も現れました。一定期間に何度も現れる事によって、見た人だけではなく、見ない人達も信じるようになった。すなわちイエス様の復活が個人の信仰だけでなく、教会の信仰になったのです。教会の信仰になるまでの準備期間を40日と言っているのです。

イエス様は弟子達の前に見える形で現れ、「あなた方と共にいるよ」と分からせ、手で触れさせ、共に食事もしました。何度も聖書の言葉を丁寧に説明し、旧約の時から書かれていて、みんなが待ち望んでいる救い主は私なのだと分からせました。弟子達は、十字架にかけられる前にはイエス様の行われたいろいろな奇跡の意味がよく分からなかったもので、十字架に付けられた時は皆逃げてしまいましたが、復活なさった後では、イエス様が待ち望んでいた救い主だとよく分かったのです。

見なくても信じる

「一粒の麦が地に落ちて死ねば多くの実を結ぶ。」「友の為に命を捨てる事ほど大きな愛はない。」「イエス様は自分たちの足を洗われた。」・・・弟子たちはそういう事が何を意味するのかを復活の信仰の中で悟り、復活の光の中で全てを聖書に書き記しました。故に聖書は全て復活の信仰で書かれているのです。40日間の間に、イエス様を見た人も、話を聴いただけで信じた人も一つの信仰で結ばれ一つの共同体となり一つの教会となりました。もう私の外にイエス様を見なくても、私の中にイエス様を見ることができる。見なくても触れなくても、イエス様を語ることができるのです。

聖霊降臨以来現在にいたるまで、誰もこの目でイエス様を見ていない、触れていないのにずっと復活の信仰は受け継がれてきています。これからの時代も最後の時まで、生きている主が伝えられていくのです。この目で直接イエス様を見ることができなくても、「私と共同体の中に神様がいます」と信じることができた、そういう新しい段階に入ったことを表した出来事が昇天なのです。天に昇られて見えなく

なったのではなく、私達の中に入られたという意味なのです。

聖霊とは神様の息、風

イエス様のもたらしたものは、2000年間私達と同じ弱い人間によって伝えられてきました。見えない神様を伝えてきた人達は決して立派な人間ばかりではありません。教会の歴史の中でも、教会の姿はずっと正しかったわけではない。にもかかわらずその教会を通してそれが伝わってきたのは、聖霊が働いていたからです。聖霊とは神様の息、風。どちらも目には見えない。でも、その働きは見ることができます。ちょうど、風が吹けばゴミや木の葉が舞うのが見えるように。ただ、私達の心が神様の働きかけにノーと言って閉じている時には、その人には風が吹いていると分からないのです。

「私はつまらない者かもしれない。けれどどうぞ私を使って下さい」とドアを開けた時、その風は神様の息となり私達の中に入り、弱い者であるにもかかわらず動くことができる。それを見て人々はそこに風があると信じる事ができるのです。

聖霊に心をひらくという事は人々に心をひらくという事

人間の悲しみや喜びに心を開く事、そして神様が望んでおられる事を感じ、心を動かされる事、それが聖霊に心を開くという事です。その時私達の心に来られた神様が、私達の中を吹き抜けていく、私達の中に天の風が吹いているのです。

皆で神様に心を開き聖霊に動かされる教会でありましょう。かたくなに閉じた教会ではなく、聖霊降臨の時そうやって教会がうまれたように、右や左に揺れながらも、聖霊に前に押し出されながら、イエス様のもたらしたものを伝えていく。そういう個人であり共同体でありたいと思います。

要約 編集部



◀ ファム・ミン・マン枢機卿さま、ようこそおいで下さいました ▶

明るい陽ざしがまぶしい 4 月 18 日（水）の午後、住吉教会の信徒達が出迎える中、にこやかな笑顔のマン枢機卿様ご一行が、昨年 1 年間トアンさんが住吉教会でお世話になった

お礼にとご訪問下さいました。

赤波江神父様は歓迎のご挨拶で、「1935 年の住吉教会創立以来、初めて外国から枢機卿様をお迎えする事、去年 4 月から 1 年間トアンさんが住吉の家族の一員として日本語の勉強の為に滞在された事」等を住吉教会の歴史や現状と共に話されました。

（ちなみにベトナムのカトリック信徒数は約 800 万人、日本の約 20 倍だそうです。）



『マン枢機卿様のご挨拶』から・・・住吉教会の皆様「アリガトウ」

最初の言葉として、みなさまに私の感謝の言葉をおくりたいと思います。

赤波江神父様の言葉にもあったように、私達の共通点は共に殉教者の子孫であるということです。殉教者の子孫である事は、天の父の心とみんなの心が一つであるということです。

日本人の信者もホーチミン市に住んでいるし、ベトナム人も日本に大勢住んでいます。

池長大司教様や松浦司教様と会ってお話しした時にも、ベトナムで働いている日本人信者への霊的司牧についてお願いしました。10 年程前、ベトナムの青年が日本に留学し、召命を頂いて名古屋の神言会に入り、昨年叙階されました。彼が日本でお世話になった日本の家族とベトナムで会いました。今回又名古屋で再会出来るのを楽しみにしています。ベトナムでも沢山の日本人に出会いましたが、今回の訪問でも大勢の方とお会いしました。

現在、コウ

神学生が大阪教区の教区長の教会で働いています。彼は私の教区（ホーチミン市大司教区）に属しています。私は司教館におりますので、彼が新司祭に叙階されたらそのお祝いをおかねて、皆さまも是非ベトナムにおいで下さい。



この後枢機卿様は、パウロ・三木ホールに用意された心づくしのお茶とお菓子でくつろがれ、住吉信徒とご歓談。教会の設備、特にトレイ等を興味深くご覧になりました。枢機卿様に説明なさるトアンさんのうれしそうな様子や笑顔は、回りの人々をもとても幸せにして下さいました。夕方 7 時からカトリックたかとり教会で待つ大勢のベトナム人信徒のためにミサのご予定。お忙しいスケジュールの中、お立ち寄り下さりありがとうございました。

ベロー神父様お元気で

MK

♪ 月の砂漠 ♪

1949 年、神戸港に外国航路の船から一人の青年が降り立ちました。判らぬことばの行き交う中で暫しあたりを見回してサッと力強い一步を踏み出しました。若き司祭ロジェ・ベロー神父様だったのです。他日、その時のご感想を伺いますと・・・「神学校で習った日本語は殆んど判りませんでした。こんな見知らぬ国に来て私は一体、何が出来るのだろうと一瞬たじろぎましたが、見上げる空の彼方にはやさしい山の連なりが見え、足もとにはフランスから続いている海がありました。

私はその時、神の思し召しに従ってここの人達と共にいきようと感じました。少しは最初に見た風景も力になってくれたのかもしれませんがね。私の生まれ故郷のブルターニュ地方のレンヌは海に遠く、登る山もないところでしたからね。」

日本で初めての教会が私達の住吉教会だったのです。

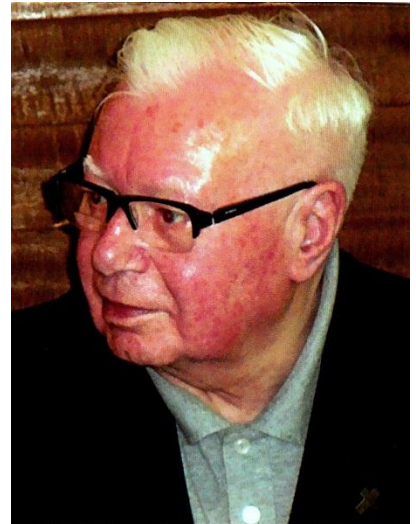
教会でのお仕事は目覚ましいものであった、と年長の信者さんはよく語られます。当時は教会とは罪の許しを受け、お説教を聴き、静かに祈る処でありました。その中で助任司祭であったベロー神父様は主任司祭とご相談の上、次々と新しい方向に向かわれました。一つは、皆さんも御存知のレジオマリエを立ち上げられたこと。これは会員になられた方々の熱い協力があって、神父様の意思を引き継ぎ、今もあたたかい対応、ボランティアなどの様々な活動に対し教会の内外での感謝が絶えません。そしてもう一つ、「星の園幼稚園」の設立です。なんて美しい響きでしょう。命名はもちろんベロー神父様。園の名前にお小さい時から大好きだった「星」をお付けになったことからもどんなに幼稚園を大切に愛されていたかを知ることができます。

「作ることは容易でも保つことに難しさがある」という言葉がありますが、幼稚園には神父様の思いを大切に受け止める先生方が集まり、たいした PR もしないのに「星の園」は地域の幼稚園として有名になりました。

当時の園児たちも今や社会での指導者であるわけですが、昔を振り返って、「ベロー神父様は優しく怖い神父様だったよな」と口を揃えて言います。キャンプなどに行って実に楽しいことをお考えになるのがお上手で、子供たちも思いっきり伸び伸びと遊ぶのですが、規律を守ること、マナーに注意することにはとても厳しいでした。お昼寝の時など一斉に寝るのですが、そんな時に限ってごそごそ起きだしてくる子供がいるものですが、そんな時は「イケマセン!!」と美しい大きな足で子どもの背中を押さえつけます。

社会人になった人も「あゝ、俺も押さえつけられたよ。」と嬉しそうに言います。今の大学生たちにこの話をすると、「子どもは純真だから愛を感じるんだ。今の大人は怖がって叱らない。あれは優しいのと違う。俺たちもきつく叱ってくれる人を望んでいるよ。」と言います。ベロー神父様のなさる事は神の愛あつての事だったのですね。

先日の帰仏なさるベロー神父様をお送りする神戸地区中ブロックと住吉教会との合同の〈楽しく淋しい会〉でも神父様は教育問題に触れておられて、若い人の将来を憂い、親は幼い人に対して真剣でなくて



はならない、と日本を去られるに際し心配をしておられました。

そして「私は本当は4S だったのに・・・」とおっしゃる。3S は住吉、下山手、鈴蘭台ですが、一つ加わって修法ヶ原で4S になったのです。修法ヶ原とは外人墓地。神父様は生涯を神戸での働きにお捧げになるつもりだったのです。「私はほんとうにぎりぎりまで迷いました。」 フランスのパリミッションから、「宣教地では存分に働き、年齢に達してきたら感謝されても迷惑はかけないようにフランスに戻りなさい。」という勧めがたびたびあったのです。集まった皆はシーンとしました。そのとき、誰ともなく歌い出したのは「月の砂漠」でした。90才から10才までみんなで歌いました。「出た出た月が」も、いろんな歌が出ました。ベロー神父様も心から楽しげに歌ってくださいました。フランスの静養地に行かれましても「月の砂漠」は口ずさんで、そして他の神父様に教えてあげてくださいませね。

6月4日、日本をお発ちになる日は珍しくお天気も良く、空港には早くから各地からの信者さんが集まりました。松浦司教様はじめ多くの神父様もお集まりになり、ロビーの一隅は静かながら和やかさに溢れていました。

子ども達を押さえつけた美しいおみあしは車椅子に置かれていますが、明るくお元気で「ちょっとフランスまで行ってくる」という感じでした。

住吉教会の
みなさんと



初代園長と
現園長



2012☆サムエルナイト☆

「英語のミサに参加しよう」

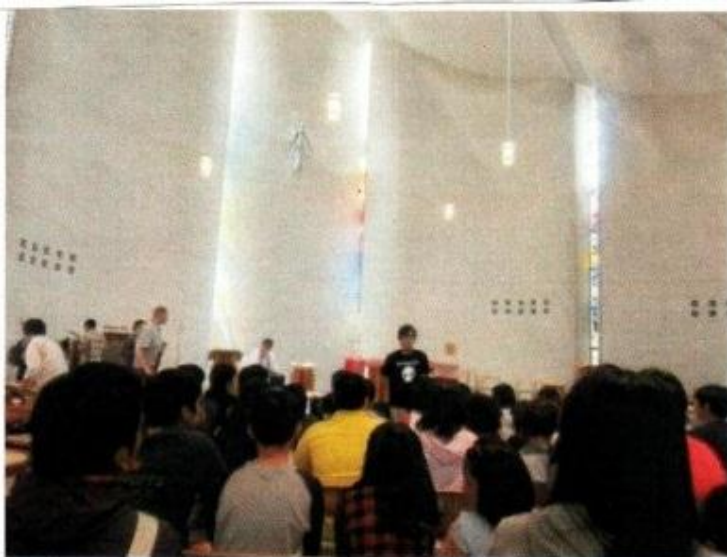
4月28日(土)～29日(日)神戸中央教会でサムエルナイトがありました。神戸中央教会住吉教会との、小学生信徒のための「合同お泊り勉強会」です。今年の参加者は36名位かな？(係の人はご存じですが…)両教会の青年会のお兄さん、お姉さんがリーダー、中高生がサブリーダーでお祈りや聖書のお勉強、楽しいゲーム、食事のお世話等をしてくださいました。教えてもらいながら出来るだけ自分たちでもやれる事はやりました。

「神様が呼ばれた時に、気が付いて応えられるように」準備していたサムエルに少しでも近づけたらいいなと神戸の震災の前に星の園幼稚園の園長先生だったSr. エステルが、灘教会と住吉教会の子供達の為に始められ、震災で中断していましたが、パウロ神父様が再開して下さい、灘教会と合併した今の中央教会と住吉とで、毎年場所を交代して続いています。

今年のテーマは「英語ミサに参加しよう」でした。中央教会の英語ミサに参加の外国の方から英語の歌を教えていただき、その明るいいリズム感あふれる雰囲気がとても楽しくて、住吉では英語のミサがないのでよい経験になったと思います。

お祈りの大切さを教えてもらいながら、神様が今この近くにもいてくださる事に気がつくように、自分の事ばかりではなくまわりの人の事も考えられるようになりたいと思いました。

お勉強や楽しいゲーム、食事準備などたくさんの事を教えて下さったリーダー達ありがとうございました。
(編集部でインタビューしたまとめです。)



ミサの後



英語ミサの歌の練習

私はサムエルナイトでまずまずかじめた事は、自分達で作ったやきそばとサラダです。なせなら、やきそばは、おきかろ 3cm くらいの長さがあって、かじったですもう一つは、むらさき玉ねぎが、ふあつてもからかたです。次はおもしろい事でも、中教の先生が、アムンツのきゅうりだけ、皮をむくのに、アムンツアムンが全部、サラダの皮をむいて、3 ばんのみんな、わらいました。でも楽しいサムエルナイトでした。

白分達で作ったやきそばとサラダ

AS



聖書の勉強



KS

サムエルナイトに参加してよかったこと。
僕は、サムエルナイトにサブリナーターとして参加しました。サブリナーターとしての参加は初めてだったので緊張しました。
参加してよかったことは二つあります。
一つ目は、中教の先生の色んな人と仲良くなれたことです。
二つ目は、班の人の名前を覚えてくれたことです。僕の場合は、人数が多すぎて覚えるのが大変だったけど、全員の名前を覚えてくれたことはよかったと思います。来年も参加したいです。



夜のお祈り

京都巡礼 バス旅行

《二十六聖人の足跡を訪ねて》

雨マークの天気予報が雨⇒曇り⇒晴⇒なんでもありの6月9日（土）、赤波江神父様とコンスタンス・コンスルタ神父様、住吉教会と神戸中央教会合同の巡礼バス旅行に参加しました。今年には二十六聖人が教皇ピウス9世によって列聖されてから150年の記念の年にあたります。前日の6月8日（金）には巡礼先の一つである京都教区のカテドラル河原町教会で、駐日教皇庁大使のジョゼフ・チエノットウ大司教様をはじめ9人の司教様方と、30人の司祭による列聖記念ミサがあり、赤波江神父様も司式にご参加、住吉から列席の方々もおられたそうです。



最初はフランシスコの家（キリスト文化資料館）

京都でバスから降りた私達を出迎えて下さったのは、河原町教会の信徒、嶋崎賢児氏。高山右近と二十六聖人の研究しておられる写真家で、巡礼の案内と説明をしてくださいました。最初に四条堀川近く、南蛮寺のあった妙満寺跡地にある「二十六聖人発祥之地」の石碑（右写真）を見て、近くのフランシスコの家に行きました。古い日本家屋で、同じ建物内にある「キリスト文化資料館」は今年4月1日より閉館中だそうです。が、フランシスコの家の一部なので特別に見せていただきました。日本にキリスト教が伝えられてからの貴重な品々や資料が、分かり易く大切に保管されており、特に二十六聖人に関するものはとても興味がありました。



河原町教会でミサ⇒ランチタイム⇒西陣教会でお話

近くの四条病院の外壁にはめ込まれている「日本二十六聖人発祥之地・・・」のレリーフは道行く人の目に付きやすい場所にあるのに立ち止まって読んだのは初めて。信長の時代にもこの辺りは賑やかで、南蛮寺は広い敷地を与えられ、周りでは異国の珍しい品々が商われ、宣教師達はこの国での宣教に夢ふくらませて歩いておられたのだと想うと、その後のキリスト教迫害時代がうそのようです。

河原町教会では「都の聖母」マリア像の為に献堂された地下の素晴らしい小聖堂でお二人の神父様によりミサが捧げられました。長い迫害時代の中、奇跡的に地中で守られたマリア像と、日本で初めて殉教された二十六聖人のかたどった26の星の流れるガラス工芸品等をみられたのはとてもラッキーでした。

☆「都の聖母」マリア像・・・1862年教皇ピウス9世によって列聖された、日本の二十六聖人の殉教に深く心を寄せられたフランスのレオン・ロベ神父様は、日本での困難な宣教を守って下さるようにとの祈りを込めて、六体のマリア様のブロンズ像をイタリアで作ってもらい、そのうちの一体を、ザビエルが教会建堂を望んだ京都の町が見下ろせる処に埋めて欲しいと、パリ・ミッション会の宣教師に託された。

1873年、東山にある將軍塚近くの松の木の根元に埋められた像は、1879年ヴィリオン神父によって掘り出されたが、奇跡的に傷一つなく1890年、京都で最初に献堂された河原町教会に安置された。現在は140年を記念して都の聖母・マリア像の為に献堂された小聖堂に安置されており、大聖堂祭壇前にはレプリカが飾られています・・・(ご説明から)

ミサの後地下聖堂横の集会室で、河原町教会信徒の皆様が準備下さった京都の「優雅で美味なお弁当」でランチタイム、幸せなひと時でした。



午後は、またバスで西陣教会へ。数日前に四国から赴任なさったばかりの溝部司教様が温かく迎えて下さり、素晴らしいお話を伺いました。(内容は本誌巻頭に掲載されています)

頭を休めてリラックス⇒太秦映画村

雨が降ったりやんだりの中、バスは一路太秦映画村へ。
頭を180度回転させて・・・入ったのは鎖国時代の江戸。隠れキリシタンはこの村では見られず、侍、忍者、腰元、完全時代劇中にタイムスリップ！映像制作の種あかしを見たり、○△×小屋や駄菓子屋を覗いたり。小雨に濡れながらさす傘はアンブレラでも心は番傘、シトシトピッチャンのチャン待つ子供。美しい五島列島出身の女優さんと集合写真を撮ってバスに乗る頃には雨も上がり・・・



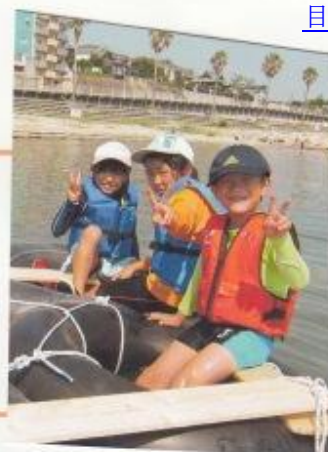
女性運転手さんの素晴らしい安全運転で無事それぞれの教会に帰りました。



2012・教会学校サマーキャンプ

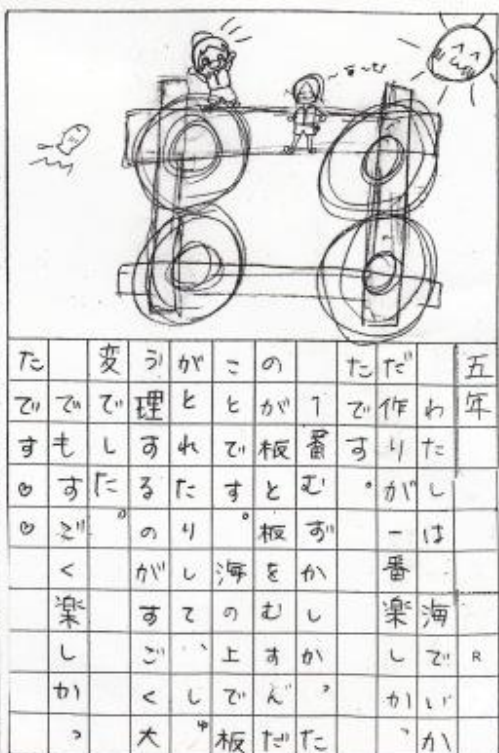
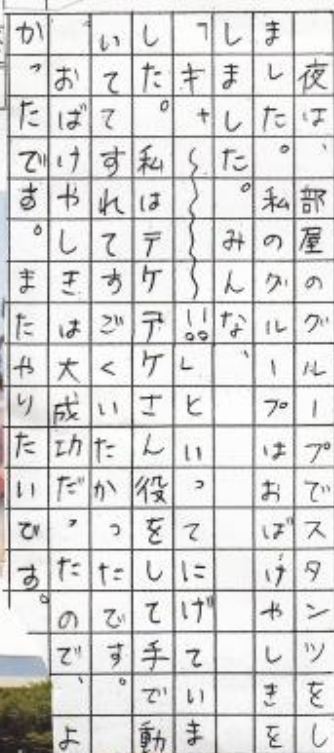
in 明石 江井ヶ島

7・27(金)～28(土)



今年も教会学校のキャンプに行ってきました。場所は明石の江井ヶ島。
海でのいかだ作りや、野外での棒パン作り、猛暑の一泊二日ではありましたが
みんなで楽しいひと時を過ごしました。





2012・中高生サマーキャンプ

7・28(土)～29(日)

今年はみんなの予定が合わず、教会の2階でお泊りキャンプとなりましたが、ゆっくりと将来の夢や人生行路？が話し合えそれなりに有意義でした。



今の気持ち
漢字ひと文字に!



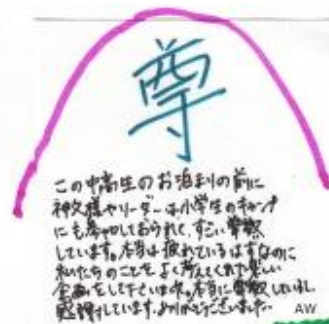
佳吉牧師のサマーキャンプと中高生会の集いに参加させていたのは神様からの恵みです。市原江神父様をはじめ、教会の子どもたち、青年たち、リporterたちと教会の皆様と楽しい時間をすごしたり、美味しい料理を食べたり、一緒に歌ったり祈ったり遊んだりするのはすべて恵みだと思います。今までの良い経験、新しい出会い、神様の恵みをお返しを感謝いたします。



(どうしてこの漢字を選んだの?)



キャンプを重ねるたびに みんなとの距離が 近くなる...
中高生 ともに じゃあああも 楽しかった
一つの輪 ができていく 感じ...
今年も 神様 ありがとう!



フィリピンから来られたエリート、神学生のエリックさんと共に

涙のタイカレー、喜びの姫女環温泉、夢は「大富豪」
笑いあり涙ありで絆が深まりました

祈

神機との大切な時間

祈りの中を みんなと逢え。。。
 心づいては 祈る 大切な時間
 中島主と 一緒に歩める事。。。
 祈りの大空を 飛ぶ！
 これから 祈りと共に
 先んで行きます！

游

HF

HF
今日の「おめい」ではトランプを遊びました。
「おめい」のこの文字を学びました。

緩

今年の中高生の夏は、
選考せず、任意参加に1泊の
お泊り会をします。
人数が少なくなるともやうが
この漢字を選びました。
任意参加こそごきげん
思いは♡感謝!!
YW

和

HV

21 7

糸半

解法二

MS

幸

みんなで食べたり、遊んだり
結構のよかったです。
幸せなことがたくさんありました。

MS



145

私は2つの意味で20歳を選んでいます。
1つは、とても楽しいから、という意味。
2つは、早く大人にならう、という気持ち。
何か特別なことはしてあげたい、
自分なりの一歩を踏み出したい、
という気持ちで、20歳を迎えたいです。
私は20歳を、毎日努力で迎えます。
20歳は、とても大切な年齢で、
自分なりの一歩を踏み出したい、
という気持ちで、20歳を迎えたいです。





ハッピー大会



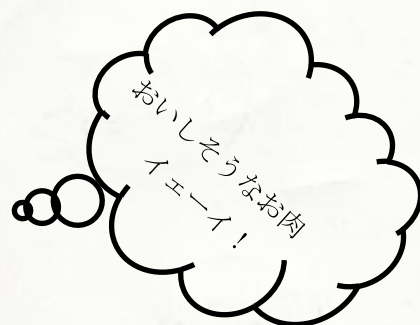
7月29日（日）17時～

住吉のモットー
皆で準備して
皆で楽しみ
皆でかたづける

これぞ夏！！がぴったりの炎天下、流れる汗を首タオルでせき止めながら、テントが張られ、テーブル、いすが並べられ、炭火がおこされる。その頃台所では、こちらも定番スタイルの首タオルを汗止めに女性陣が、おにぎりを作り、山のような新鮮食材の数々を切りそろえ、湯がき、次々トレイに並べ園庭に運ぶ。冷やされたジュースや大やかんで休む間もなく沸かし急冷を繰り返したお茶もテーブルに。クーラーボックスの中ではビール、ワインも冷えている。近隣の教会や修道院から神父様やシスター、信徒の方々それに中高生のキャンプや教会学校のキャンプに同行して下さったトワンさんや、フィリッピンのエリック神学生も参加。夜が更けるまで賑やかに楽しい夏の夕べを過ごしました。汗だくで煙にまかれながら、途切れる事無くみんなの注文に応じて焼き続けて下さったかつて青年だった皆様、中高生、教会学校の子供達ありがとうございました。



汗だくのシェフたち



お客様を迎えて



《司教と青年の対話集会「主は私を見つけた」に参加して》

KH

7月7～8日に多治見で開催された大阪管区の教区の司教様6人と各教区の青年が共に語り合うというイベントに参加をしてきました。そして、普段では司教様に聞けないような質問や相談をすることができたので、私たちにとって、何か遠い存在のように感じていた司教様たちを近くに感じる事ができ、大変貴重な経験ができました。また、他教区の青年（京都、広島、高松、名古屋）の青年たちとも交流することができました。分かち合いの場面では自分の人生を振り返った時に中学の部活等さまざまな理由で一度教会を離れた時期が多く、青年に共通してあり、そして何故また教会に戻って来たのかという事を同世代の青年達と話し合うことで互いに理解し合い、自分の信仰というものを今一度見つめ直す機会となりました。



以上のように一泊二日のイベントでしたが、非常に内容の濃い時間を過ごす事ができました。そして、この住吉教会から私以外にも教区のイベント等に関心を持った青年、中高生の方がいれば是非とも声をかけてほしいです。やはり、教区を越え自分と同世代の人と交流するという事は非常にいい刺激となり、自分たちの信仰を分かち合う事ができる貴重な仲間となり得るので、興味があれば一歩外に踏みだしてみてください。



《 レジオ マリエ 》

活動会員・賛助会員へ入会のお勧め

MT

活動会員

現在、殉教者の元后プレシディウムの会員は10名、集会は毎火曜日9時30分から御ミサに与ってのち、第一会議室で行われます。集会はロザリオの祈りから始まり、霊的読書、神父様のお説教、仕事の報告、割当、討議、終了の祈り、エーデル・クインの列福を求める祈りとフランク・ダフの列福を求める祈りを交互に唱え、司祭召命を求める祈り、神父様より神様の祝福をいただき、閉会となります。

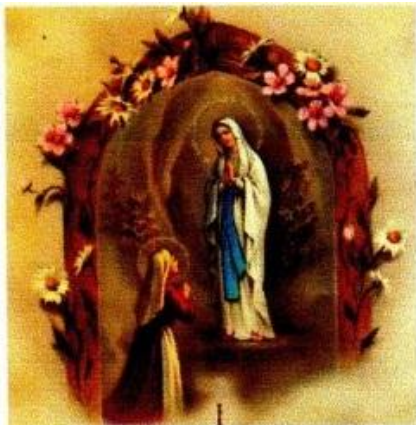
閉会後は、香部屋、小聖堂、第一会議室のお掃除をします。午後2時、神父様のお供をして訪問、お見舞いをする人2名参加します。

賛助会員

賛助会員には、司祭、修道者、一般信徒の誰でもなることが出来ます。祈りの奉仕にたずさわることによってレジオの一員になることを望んでいる人たちで構成されています。

賛助会員や他のすべてのレジオの奉仕は、聖母のお望みのままに用いられる無条件の贈り物として捧げられねばならないということです。そうすれば、その奉仕は非常に寛大なものとなり、その価値は大いに高められるでしょう。

(ハンドブック【提要】より抜粋)



※ 男性の方、お若い方の参加も望んでいます。

[目次](#)

《 教 会 日 誌 》

- 4・12（木） 茶話会
- 4・15（日） シリロ神父様送別会
- 4・21（土） 教会学校始業式
- 4・18（水） マン枢機卿様ご来訪
- 4・22（日） 小教区総会（信徒総会）
- 4・28（土）～29（日） サムエルナイト（神戸中央教会）
- 5・10（木） 茶話会
- 5・13（日） 神戸バイブルハウス支援コンサート
- 5・20（日） 主の昇天ミサ ベロー神父様送別会（鈴蘭台教会）
- 5・27（日） 聖霊降臨の主日ミサ 松浦司教様司牧訪問
- 6・3（日） 三位一体の主日
- 6・9（土） 二十六聖人巡礼バス旅行
- 6・14（木） 茶話会
- 6・24（日） 洗礼者ヨハネの誕生（山本助祭集会祭儀）
- 7・12（木） 茶話会
- 7・21（土） 教会学校終了式
- 7・27（金）～28（土） 教会学校キャンプ（明石市立自然の家）
- 7・29（日） バーベキュー大会
- 8・2（木）～5（日） 神戸地区と福島の子供達の合同キャンプ
- 8・4（土） 平和旬間祈願ミサ（愛徳学園講堂）
- 8・15（水） 被昇天ミサ

《後 記》

昨年から週 3 回人工透析をするようになり、広報活動もままならない。
お昼頃送迎バスに乗り帰りは 7 時過ぎ。4 時間寝ている透析は仕方ないが、終わり頃 15 分は、足がつってその痛さは大変だ。心臓まで苦しくなり、うなったり叫んだり
重病人のありさまだ。どうにもならない体質との事で発想を変える。

「かみさま、この苦しみを捧げます。」

身近の人から世界の平和まで、私の小さな犠牲が神様のみ旨にかないますように。

(なんとけなげな事よ！)

「しかしかみさま病や苦しみはつらいです。助けて下さい。ちっぽけな犠牲など、いら
ないと言って下さい。・・・別口の犠牲を探しますから。」 M

♪ マリア様のこころ それは山ゆり ♪

昨年沖縄のおみやげに頂いた百合根を鉢に植えたら、一メートルほども伸びて、その先
に一度に四方に向かって四つも大輪の花が咲き大喜びしました。そのままにしていたら今
年は三本も芽が出て伸びて、そのうちの二本からは四輪ずつ、何と一本からは五輪も咲き、
切花にして楽しみました。

あまり珍しいので友人に話したら、最近のテレビで、それは百合のストレスでそのような
咲き方をするのだと知らされました。気候の違う神戸の地で、ストレスに打ち勝って沢山
の花を咲かせてくれた百合を見て、何とも申し訳ない気持ちで一杯になりました。人は人
間世界の中で、ストレスをどんな形で発散しているのでしょうか？

どんな事があっても人に喜んでいただける事を見つけて笑顔一杯の花を咲かせたいもの
だと思いました。 ♪ わたしたちもほしい、白い山ゆり ♪ H

「すみよし」第187号

発行日： 2012. 8. 15

発行責任者： 赤波江豊神父

編集・発行： 広報チーム

発行所： 神戸市東灘区住吉宮町

2-18-23

カトリック住吉教会

TEL : 078-851-2756

FAX : 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>

製版・印刷 : 信徒有志

